

令和5年度 バルツァ・ゴードル事業報告

看護療育

1. 利用者の尊厳を尊重した看護・療育の支援ができる

問題発生時や利用者の状態変化に応じて看護・療育スタッフでカンファレンスを開き、看護計画の修正を行い状況に即したケアを実践できた。また、慣習や根拠の不十分なケアについて意見を出し合い、適正な方法に変更することで、より利用者を尊重した看護療育の実践につなげることができた。

終末期利用者のケアについて多職種も含めたカンファレンスを開き、利用者・家族が満足できるケアを提供できるように取り組めた。

1階病棟では限られたマンパワーの中で安全なケアを提供することを目的にスタッフから提案のあったペアリング・2チーム制での看護日勤業務を9月から開始した。それぞれのペアで補完し合いながら業務を行うことができ、多様な働き方のスタッフがいるなかでもケアの質が担保されるようになってきた。

利用者との日々の関りの中から真に必要なケアを見出し、看護・療育が協働して質の高いケアを提供できることを、引き続き次年度への課題とする。

2. 感染・医療安全管理を徹底し、安全で安楽な環境を整える

スタンダードプリコーションによる感染予防対策を実施していたが、新型コロナウイルス感染症が1階病棟で8月にスタッフ2名、利用者4名が発症した。2類対応に準じた隔離等の感染対策を講じ、2次感染の発生や陽性者の重症化がなく収束した。感染症の利用者感染を防ぐためには個々の職員が感染症の持ち込みを防ぐことの認識をしっかりと持つことができる教育・指導が必要であり次年度への課題でもある。

インシデント発生時にはレベルに関わらずインシデントカンファレンスを実施し再発防止に務めた。しかし、転倒のリスク回避の目的で利用者を拘束せざるを得ないこともあり、ジレンマが生じる。リスクを最小限に抑えるための方法を検討し尊厳を守れるケアを実施していく。

12月より、電子カルテと同時にインシデント報告分析支援システム「CLIP」が導入され、医療安全対策のためのヒヤリハット事例を分析・リスク管理ができるようになった。一時は、入力に不慣れなため、報告件数が減少した。適時な報告ができるように今後も働きかけ、再発に取り組むことが必要。

利用者が安全で安楽な環境で生活できるためには、スタッフの知識の向上・更に技術を磨き質の高いケアができるように院内外における研修の充実を図ることが課題である。

3. 施設の運営指針に沿った病棟運営ができる

重症心身障害児施設の変革期を迎え、10:1看護体制の取得ができたこともあり、医療的ケアや重症度の高い方の受け入れを進めることができた。そのためのスタッフの配置換えや利用者の病棟移動も進めることができた。

ショートステイ受け入れ延べ日数は665日となり前年度より上回っている。医療的ケアの多い方の利用が増えていることから、社会的ニーズに対応できる施設になれるよう、今後も取り組んでいく。

電子カルテを12月に導入したことにより、看護処置や薬剤に関するコスト意識が高まったが、一部のスタッフは電子カルテ操作に難渋する部分もあり、日々のケアについて確実な算定ができるように記録監査と操作サポートが今後も必要である。

薬剤課

薬剤課の業務内容は以下の通りです。

1. 調剤業務
2. 薬を与薬カートへセット

3. 在庫管理
4. 医薬品情報収集と提供
5. 病棟業務
6. 他業種連携
7. 院外勉強会や講習会へ参加し、薬剤師としての専門知識のレベルアップに努める

2023年度は電子カルテ導入され、薬剤マスター登録や調剤作業の設定変更をするなど、医療安全面を考えて良い方法を決定する年でした。

電子カルテの操作や画面の見方、情報収集のやり方に慣れない時期に、確認ミスや操作ミスに関するヒヤリハットが発生してしまいましたが、その都度反省し、見直し、改善策を決定。できる限り早急にヒヤリハット報告書を提出することで次のインシデントを防げるよう、業務を遂行して参りました。

また在庫管理については、採用医薬品を後発品に設定したくても、数年前から続いている出荷調整の影響により入手困難な状況下では、先発品に設定する必要がある出てきたり、新入所者様用の薬剤確保が非常に難しく、値段が高くても欠品を避けるため購入せざるを得ない事などもありました。そして納品まで時間がかかることを見越して使用量以上の薬剤を常に余裕をもって在庫しておく必要もあります。今年度末の薬剤棚卸の結果が例年よりかなりの増額をしてしまっていた事は、それらの影響によるものであると考察いたします。欠品は絶対に起こしてはいけません、今回の在庫額以上にはできる限り増えないようにも気を付けていきたいと思えます。

今後も常に安全性と業務効率との向上をはかり、一人一人が責任感を持ち、正直に業務を行っていく職場にしていきたいと思えます。

2023年4月～2024年3月処方箋枚数・剤数

	外 来			入院(臨時)		入院(定期)		入院(臨時)
	剤数	枚数	注射(枚)	剤数	枚数	剤数	枚数	注射(枚)
4月	1	1	0	151	125	1,121	276	13
5月	4	3	0	118	102	1,127	275	11
6月	6	3	0	140	118	1,108	266	6
7月	7	7	0	120	105	1,124	264	11
8月	6	3	0	119	107	1,126	264	8
9月	4	4	0	118	105	1,113	261	4
10月	16	10	0	125	102	1,112	260	29
11月	13	9	0	181	154	1,112	260	7
12月	26	15	1	124	94	1,114	259	14
1月	18	11	1	212	157	1,119	260	16
2月	12	2	0	158	128	1,126	260	21
3月	15	5	0	143	116	1,103	257	20
合計	128	73	2	1,709	1,413	13,405	3,162	160
AVE. (Month)	11	6	0	142	118	1,117	264	13
AVE. (Day)	1	0	0	7	6	54	13	1

栄養科

食事提供については引き続き大きな事故も無く、無事に終えることができた。厨房の運営においても、委託会社との連携も良好で、安定かつ衛生的に運営できたと考える。

栄養科の体制として、常勤管理栄養士1名で業務を行ってきた。献立や発注業務、病棟等との連携など業務内容を精査しながら、大きな混乱なく遂行できたと考える。

<評価・課題>

ご利用者さまの加齢及び重症度に伴い、食事形態や栄養に関する再検討の必要がでてきている実態がある。病棟スタッフ及びリハビリ科(言語聴覚士)との話し合いを通じて、見直しを行うことができた。その中で、

形態調整食については、量に対する課題が生じていることから、2024年度はそこに着目していきたいと考える。

感染症発生時の体制としては、定着してきており病棟とも連携しながら、対応できたと考える。災害時における対応について、栄養科及び厨房の役割については具体的な方策を立てることができなかった。この課題について次年度に繰り越し課題に取り組んでいきたい。

栄養評価及びNSTの運営については、例年通りに実施を行ってきたが、加齢及び重症度に合わせた評価をできるようにしていきたい。

栄養科の体制は常勤管理栄養士1名での業務を行っている。計画的な業務管理ができていると考える。また、電子カルテ導入により給食システムの変更があった。給食システムの整備を次年度も引き続き行っていく。

実習生の受入についても継続することができ、日々の業務と銃心身障害児者の施設の特性を知ってもらうことができた。

人材育成事業を通して、他事業所と情報の交換等ができたこと、奈良養護学校との食育（食体験）を通して、本年度も様々な活動を行うことができた。

<2024年度（令和6年度）の目標・課題>

- ・食事形態（形態調整食）等における課題解決に向けた取り組みの継続
- ・安心、安全な食事の提供
- ・栄養(再)評価及びNST運営の継続 等

給食委員会

委員会メンバー：医師・看護師長・療育主任・言語聴覚士・管理栄養士・委託給食会社現場責任者

内容：利用者の『食』に付随する事を、それぞれの専門知識を有する病棟スタッフと協議する委員会。

2023年度は4月、5月、7月、10月、12月、2月の計6回実施した。栄養科と病棟スタッフ、他の専門職との意志疎通や連携を図る重要な機会である。

参加メンバーが各病棟の管理職が担うことにより、スムーズな話し合いを行うことができています。

【2024年度の主な取り組み】

- ・食事関連のヒヤリハット事例の報告
- ・配膳時間など病棟と厨房との業務調整
- ・食事評価の報告の場
- ・病棟お誕生日会日程の調整及びケーキの準備
- ・感染症発症時の食事対応の確認
- ・行事食の報告及び提案

【2023年度まとめ】

本年度は、毎月開催から年6回の改正に変更し、管理職を交えた委員会構成で実施した。味見食や聞取りによる嗜好調査をとおり、日常的に食事に対する意見をとりまとめることにより、きめ細かい対応ができたと考える。参加している各部署管理職の協力もあり、日々の給食提供や行事等の対応もスムーズに行うことができた。

厨房委託業者には毎回参加してもらうことにより、お互いの信頼関係を築くと共に、積極的な意見交換が出来たと感じる。次年度も引き続き、積極的な意見交換を行いより良い給食の提供に努めたい。

【次年度予定】

次年度も引き続き同じ形式で運営される。

2022年度 行事及び時節献立一覧表

開催月	日付	項目	主な内容
4月	複数日	春メニュー	菜の花のクリームスパゲティ、豆ごはん
5月	5月5日	こどもの日	こどもの日おやつ(プリン・ラ・モード)キ、こどもの日メニュー(オムライス風エビピラフ)
6月	複数日	夏メニュー	冷やし中華、夏野菜カレー
7月	7月7日	七夕	七夕そうめん、蒸しシュウマイ、フルーツ、七夕ゼリー
	複数日	夏フェスメニュー	お好み焼きカラフルゼリー他
	7月31日	土用の丑の日	うな玉、キュウリの酢の物、すまし汁
8月	複数日	夏メニュー	夏野菜料理
9月	複数日	秋メニュー	サンマの照り焼き、さつま芋ご飯、
10月	10月18日	フェスティバル	フィリピン料理(マハブランカ、チキンアボド)
	複数日	フェスティバル	イカ焼き他
11月	複数日	秋メニュー	きのこカレー、茶碗蒸し、秋野菜料理
12月	複数日	クリスマス会	チョコムースケーキ
	12月25日	クリスマス	煮込みハンバーグ、マカロニグラタン、コンソメスープ
	12月31日	大晦日	年越しそば、かき揚げ
	複数日	冬メニュー	白菜と鶏肉の寄せ鍋風煮、冬野菜料理
1月	1月1日	お正月	赤飯、おせち、祝肴、雑煮、栗のムース黒豆ソース添え
	1月7日	七草	七草入り雑炊
	複数日	冬メニュー	寄せ鍋風煮、冬野菜料理
2月	2月3日	節分	恵方巻き、イワシのつみれあんかけ、すまし汁
3月	3月1日	ひな祭り	春の散らし寿司、冬瓜の炊き合わせ、すまし汁、甘酒プリン
	複数日	春メニュー	春野菜料理、マンゴーミルクティー

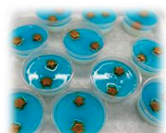
※ 毎月誕生日会に手作りケーキ、注入者へはジュース提供

院内約束食事箋及び行事食写真

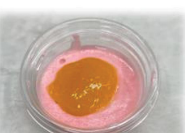
一般食		
食種		熱量 kcal
常食	A	1500
	B	2000
全粥食		1380
ペースト食		1190
流動食		770
低カロリー食		1200

特別治療食		
食種		熱量 kcal
貧血異常食		1400
低脂肪食		1572

手作りおやつシリーズ



七夕ゼリー



甘酒プリン(ひな祭り)



カラフルゼリー



チョコムースケーキ
(クリスマス会)

クリスマス

ミートローフ



ふつつ食



きざみ食



押しつぶし食



ゼリー食

お正月



七夕



リハビリテーション科

入所利用者様には個別リハビリテーションを中心に実施し一人当たり 2 単位または 3 単位で実施した。1 日の目標単位数を 12 単位としてリハビリテーション業務を行っており、2 月現在平均して 12 単位の目標を達成できていないので今後の課題である。

科内スタッフの技術向上を目的に月に 1 度程度ケーススタディーを実施した。

利用者様の情報共有を目的にケースカンファレンスを適宜行い 3 職種で情報共有を行った。

昨年度末に病棟看護師より吸引方法の指導を頂いた。その後の日常業務において、喀痰吸引が必要な利用者様に対して適宜実施し、安全に遂行することができた。

在宅移行支援として、当院入所の利用者様が安全にご自宅に帰れるようにリハビリテーション介入、環境調整、ご家族への指導を行った。

リハビリテーション目的の短期入所利用者様に対してリハビリテーションを実施し、ご家族への指導等を行った。

病棟で開催される、イベントに各療法士の特徴を生かした関りを行い、イベント運営の一端を担った。

プール活動は病棟活動の一環として行い、実際に入水したり、プール周辺のサポートをしたりといった役割を担った。今年度出た課題を来年度のプール活動に生かすために適宜会議を行い、資料を作成した。

座位保持装置や装具類の作製のコーディネートを行った。3 職種や病棟スタッフと意見交換を行いながら、利用者様のよりよい生活のために必要な機能や姿勢を考え、業者との意見交換を行った。

人材育成事業については、事業所への訪問や施設見学時の説明などを行った。

PT

人員は常勤 2 名非常勤 2 名の体制でスタートし、12 月に常勤 1 名が退職し、2 月時点で常勤 1 名、非常勤 2 名の体制となっている。

理学療法内容は利用者様の個別目標に対してアプローチし、ポジショニングや呼吸理学療法、座位、立位、歩行練習を主として実施した。入所利用者様に対するリハビリテーションは、常勤理学療法士は月 1 回ほどの介入機会を設けているが、介入機会が少なくなる利用者様もおられる。その場合は、非常勤スタッフに介入して頂き、できるだけリハビリテーションの提供機会が減らないように工夫した。外来リハビリテーションについては、6 名に対して実施しており、頻度は 2 週間に 1 回程度である。職員の退職に伴い、常勤理学療法士 1 名での対応となったため、入所リハビリテーションとのアンバランスが生まれているのが現状である。

学術活動については日本神経理学療法学会に聴講で参加した。学会では、中枢神経系のリハビリテーションに対する近年の考え方や、実際に行われている理学療法内容について学ぶことができた。学んだことについては、書面で各課に報告を行い、リハビリテーション科内でも書面にて共有を行った。

OT

人員は常勤 2 名の体制でスタートした。下半期からは利用者様を担当制にし、各病棟に OT がそれぞれ 1 名ずつ介入するようにした。

上半期は、新人 OT 職員は一か月間の病棟研修を通じて利用者様の生活や他職種の業務を学ぶことができた。その経験を活かし、研修後の臨床業務にスムーズに移行できた。

夏には 2 名の作業療学科の臨床見学実習生を受け入れ、学生の指導にあたった。学生へのフィードバックを通して、再発見することや、現在の介入方法を見直す機会にもなり、貴重な経験と学びとなった。

ST と合同での整容活動や季節を意識したクッキング活動では、集団ならではの利用者様の反応をみることもできた。

秋には、個別 OT で作製した利用者様のアート作品をプライベート美術展に応募し今年は 23 作品が選出された。この活動は利用者様が社会参加される機会であり、重要な活動であると考えている。またご家族の方々が、作品が飾られているお店へ足を運ばれ、作品が多くの方の目にふれたことに対して感謝の言葉を頂く事ができた。

ST

これまでと変わらず、利用者様個々に合わせた介入を大切にし、出来ること・やってみたいことを引きだした関りが持てるように続けてきた。常勤が1名ではあるが、食事介助の方法などについては病棟担当者をはじめ適宜検討を行い、統一した方法を共有することで、安全な食事環境を提供できるように連携を図ってきた。病棟でのリハビリテーション介入機会を増やしたことで、病棟スタッフがリハビリテーションの様子を見ることができ、取り組みを知ってもらえる良い機会となった。

OT と季節や行事に合わせたテーマで、小グループによる活動を行い、利用者様に応じた活動内容を検討し取り組んできた。

訪問教育の教員とも連携を取り、授業に参加させてもらったりする中で、授業がより有意義になるように情報共有を行った。

地域支援

医療型短期入所

今年度の大きな変化としては2床での運用から3床（1病棟1床、2病棟2床）となり、コロナ禍以前と同じ運用を再開できた事である。

実績としては

令和5年度年間の利用日数実績は665日であり、3床想定での稼働率としては約60.7%となっており、昨年度よりも約6%減少した。予約が多く入るが、急な体調不良や入院になるなどのケースが多かったと感じる。

コロナ5類移行による影響で利用を再開した方や新規利用についての相談は多く、令和5年度の利用延べ人数は38名。内今年度からの新規利用登録者数は10名であった。

特定計画相談支援・児童相談支援事業

2023年度の実績としては特定計画相談1件増、3件減・児童相談1件増、であった。

新規利用内訳としては新規入所利用者を他事業所より引き継いだ方1件、医療型障害児入所から在宅移行した方の児童相談1件。減少としては、逝去による契約終了が3件であった。

一年間の実績としては計画作成、モニタリング合わせて87件となる。

地域相談

入退所の支援については新規入所された方が7名・退所された方が9名であった。

入所については児童での入所が契約入所2名、措置入所1名。療養介護利用については、4名、内一名はリハビリ目的の入所で3ヶ月限定であった。

そのうち呼吸器を使用している方が3名と、新規入所利用者の半分を占める形となる。

また、リハビリ目的での入所が多く見られた。中途障害で肢体不自由となった児童の受け入れや計画相談で介入している方が、リハビリを兼ねて入所を体験してみたいとのニーズに応える形で有期限での入所となるケースが3件。内1名は長期入所へつながった。

退所については医療型障害児入所ご利用者様で在宅移行目的での退所された方が2名。病状緩和により他施設へ移られた方が1名。

療養介護利用者様においては、ご逝去された方が3名、病状の緩和により他施設へ移られた方が2名、リハビリ入所で出入りした方が1名であった。

昨年度より移行先を相談していたケースにおいて、以前から連絡を密に取る事で、急な空床発生にもすぐに対応する事ができ、スムーズな移行に繋がったと感じる。

一年間において長期入所、短期入所において、入退所の多くある年度であったと感じる。様々なケースを受け取る中で、障害の重度化、医療的ケアを受け入れられる施設の重要性、ニーズの多さを改めて感じさせられた。

防災訓練

2023年防災委員会実績表

月/日	内容	種別	
4月1日	新入職員対象消防設備、避難経路オリエンテーション	消火・通報・避難	
4月18日	アクションカード意見抽出・見守り方法・避難誘導方法・地震アンケート	消火・通報・避難・防災	
5月16日	全館停電調査時に停電体験アンケート・照明器具購入・消防設備	防災・消・通・避	
5月23日	計画停電全体訓練 地震・火災（消火・通報・避難誘導）	防災・消・通・避	全体防災・停電
6月20日	計画停電振り返り・7月水平避難机上訓練（通報・消火・避難誘導）	消火・通報・避難・防災（停電）	
7月18日	地下厨房火災想定全体訓練（学校・空海参加）	消火・通報・避難	全体火災
8月22日	水平避難訓練評価	消火・通報・避難	
9月1日	トヨタモ安否サービス一斉送信	防災	
9月19日	防災委員対象消防設備、避難経路オリエンテーション	消火・通報・避難	防火設備
10月17日	2階洗濯室火災AM5:00夜間想定全体机上訓練	消火・通報・避難	全体火災夜間想定
10月29日	奈良市総合防災訓練報告（奈良医療センター）9：00～12：00	防災・福祉避難所・病院避難所運営	防災
11月28日	垂直避難、実地&机上訓練実施について検討（呼吸器使用）	水害・避難・消火・通報	防災（水害）
12月19日	垂直避難訓練（実施1名&机上）	避難	全体防災（水害）
1月16日	災害後の避難生活を想定したシミュレーション	防災・避難・消火	防災（地震）
2月20日	災害発生時対応シミュレーション（BCPセミナーワークショップをもとに）	避難・防災（避難所）・消火	防災
3月19日	今年度評価・次年度にむけて「自然災害発生時における業務継続計画」見直し追記	防災・消火・避難誘導	

備考：

- 2023年4月3日 給湯湯沸かし設備設置 消防署届出済み
- 2023年5月23日11：45～13：45 全館停電調査と停電体験訓練（防災）
- 防犯設備点検（4月.7月.10月.1月）
- 消防設備点検（5月.11月）

寄付・助成金他

事業名	団体名	金額	適用
ボランティア活動支援事業	政策医療振興財団	80,000 円	運搬台車等
光熱費等高騰対策医療機関等支援	奈良県	3,080,000 円	光熱費等
光熱費等高騰対策一時支援	奈良県	9,000 円	光熱費等
重症児者施設への感染対策	日本財団	5,000,000	セントラルモニター等
地域療育支援施設整備	奈良県	3,093,000 円	ベッドサイドモニター等
医療的ケア児者支援人材育成モデル事業	奈良県	777,500 円	運営費等
在宅人工呼吸器使用者非常用電源整備	奈良県	925,000	ポータブル電源等
寄付	森田記念福祉財団	1,000,000 円	感染対策費等
寄付	家族会	150,000 円	活動用品等
寄付	家族	500,000 円	活動用品等
イーローシート	イオン	27,400 円	活動用品等